■発行 平成28年1月1日

やりゆうでぇ 92

一絃の音色に魅せられて

平成27年11月7日(土)県立文学館で「小学生による一絃琴と朗読を楽しむ」というイベントが行われた。これは、同館の特別企画展「ありがとう。宮尾登美子さん～88年の生涯を偲んで～」に合わせて企画され、香我美小学校の児童5人が一絃琴を演奏した。子どもたちの一絃琴への取り組みを追った。

担当／広報編集委員 井上桂子

◆始まりは「遊トピア塾」

平成27年8月12日。香我美市民館主催の「遊トピア塾 一絃琴教室」が開かれた。集まった子どもたちは、香我美小学校の2～6年生8人で、この中には一絃琴に初めて触れる子どももいた。指導するのは、香我美町一絃琴の会のメンバー約10人。

一絃琴は、たった1本の糸を張った楽器である。左手の中指にはめた『ろ管』で弦を押さえ、右手の人差し指にはめた『ろ管』で弦をはじいて演奏する。一人ひとりにメンバーがつきっきりで弾き方や歌を丁寧に教えていく。曲は「今様」と呼ばれる古典曲。まだ手つきはぎこちなく、音も不安定な様子だ。2時間たっぷり練習した後、子どもたちは家でも練習するため楽器を家に持ち帰っていった。

◆弾き歌いはむずかしい

10月になると、隔週で練習会が行われた。「今様」は平安時代中期以降、民衆や貴族の間に流行したという歌謡で、現在では、雅楽の「越天楽」に代表される。

一絃琴では、曲を弾きながら歌も歌わなければならない。今の歌とは違う節回しである。弾き歌いは難しいのだが、練習を重ねるごとに音も安定してきて、一生懸命歌いながら弾いている子どもが増えている。指導するメンバーも子どもたちの上達の速さに感嘆していた。

「今様」が上達してくると、2曲目の「紅葉」に挑戦。教える側にとってはなつかしい文部省唱歌だが、今の小学生にはなじみが薄いため、再び付きっきりで指導が続く。練習が仕上げに入るころ、「香我美町一絃琴の会」を指導されている吉村三起子さんも加わり、さらに練習が重ねられた。

◆いよいよ本番

本番当日がやって来た。午後2時からの開演に集まった聴衆は90人近く。

まず、吉村さんが門田宇平愛用の一絃琴で「須磨」を演奏。続いて「香我美町一絃の会」が「漁火」を演奏した後は、いよいよ子どもたちの出番だ。

緊張のなか「今様」に続いて「紅葉」が演奏される。大人も子どもも一つになった安定した音色、しっかりとした歌がホールいっぱいに響く。短い期間によくぞここまでと、思い切り拍手を送った。常日ごろ子どもたちを応援する貞岡由子さんが地元から駆けつけ、子どもたちに花束を贈った。

演奏後のインタビューで、子どもたちは「ドキドキしたけどうまく弾けた」「はじめはどうやって弾くのかわからなかったけど、教えてもらってできるようになり、楽しかった」「歌を覚えて弾いて楽しかった」などと感想を述べていた。その表情は、難しいことを乗り越えできるようになった充実感に輝いていた。

◆一絃琴聴いてみませんか

それから1か月余り。再び練習が始まった。1月9日(土)の香我美町文化祭、1月30日(土)の岡本弥太文学賞記念式典、3月6日(日)の合併10周年記念総合文化祭と出演予定が目白押しで、新しい曲にも挑戦するのだという。多くの人に一絃琴に親しんでもらう絶好の機会である。この子どもたちが郷土の文化財である一絃琴を引き継いでいけるよう、精いっぱい応援したいものだ。

明けましておめでとうございます

▼「干し柿、鳥に全部食べられちゅう」。プランデー漬けがおいしいと聞き、挑戦しようと思っていた矢先の出来事。母が作る干し柿を狙っていたのは、どうも私だけではなかったみたい。(猪)

▼最近、家の近くにタヌキが出現。走る姿がなんとも愛らしい。別の日、ボテッボテッと走る愛くるしい(?)後ろ姿が。タヌキじゃなくウチのネコだった…。ちょうと痩せような?(ゆ) (た)

▼暑い日が続く今年の冬。98豪雨の時と同じエルニーニョ現象が起こっているそう。家族、親族が集まる時期なのでぜひ防災の話題を! (T)

▼むか～し昔、神様が十二支を決める日、猫はねずみにだまされて十二支に入れなかったそう。それ以来、猫はねずみを追いかけ回すようになったとさ。(あ)

《広報へのメール》
kouhou@city.kochi-konan.lg.jp
《香南市のホームページ》
http://www.city.kochi-konan.lg.jp

リニューアルしました

i広報紙

スマホで広報を見よう

i広報紙アプリのダウンロードはこちらから

■編集 香南市広報編集委員会(市役所総務課秘書広報係)
〒781-5292 高知県香南市野市町西野2706 Tel.0887-56-0511 ■印刷 (株)高知新聞総合印刷